

カトリック

# 広島教区報

## クリスマス・新年

### おめでと〜うございませ〜

カトリック広島司教区長  
三末 篤實 司教



私たちは毎年クリスマスの誕生をお祝いいたしますが、そのたびにどのような思いでお祝いをしてるのでしようか。

クリスマスの誕生は、神が人類の救いのために人間性をおとりになつてこの世にお生まれになり、人類に救いの道を示された神の愛に感謝し、喜びをみんなで分かち合う日です。神が私たちへお与えくださった愛のプレゼントの日なのです。私たちはその愛を受け止め、より多くの人々へ分かち与えるよう努めなければ

なりません。そうしてこそ真のクリスマスの意義は生まれてくるのです。

新年を迎え、心からおめでと〜うを申しあげます。旧年中には公私共にご支援・ご協力いただき、深く感謝申しあげます。新しい年にも神の豊かな祝福が与えられ、神のみ旨が広く行き渡りますように希つていきます。二〇〇八年の十一月二十四日には、長崎にて百八十八名の殉教者の列福式が行われる予定になっております。広島教区からも五名の殉教者が列福されますが、このことは広島教区にとつても大きな栄光です。喜びでもあります。共に喜びお祝いいたしますよう。殉教者をマルティールと呼んでおりますが、本当の意

No. 71

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介神父

広島市中区鞆町4-42  
広島司教館内  
TEL (082) 221-6017

味は「証人（あかしびと）」のことで。私たちの信仰と救いの道が真実であることとを「あかし」するためには殉教者は自らの生命を献げられました。

私たちが「平和の人」となり、殉教者に倣つて真の信仰のあかし人となるよう努めて参りましょう。お祈りを忘れることなく、毎日の活動を通して神の御国の完成のために最善を尽くしてまいりたいと思ひます。皆さんのうえに神の祝福を祈りつ〜。

### 二〇〇八年の 教区年間テーマが決定

―ペトロ岐部と百八十七殉  
教者列福の年―

二〇〇七年十二月九日の教区宣教司牧評議会で、二〇〇八年の教区年間テーマ、サブテーマが話し合われ、「平和の使徒となろう」〜今、殉教を生きるとは？〜が決定された。

二〇〇五年に出された広島教区の基本方針である司教宣言のテーマと、二〇〇八年十一月二十四日に長崎で行われる「ペトロ岐部と百八十七殉教者列福ミサ」に向けて、広島教区民一人ひとりがキリストの証し人として「今、何をすべきか」と問われていることを考える一年として副題（サブテーマ）が付けられた。

教区宣教司牧評議会では、次のことが議題として出され、話し合われた。

- ① 平和の使徒推進本部事務局からの報告と提案

平和の使徒推進本部の規約案と今後の体制について、現在の状況に関する報告があり、今後この課題に対する取り組みと早期確立について確認した。

### ② 平和推進チーム、養成推進チーム、きょうどう推進チーム、JICARM (日本難民移住移動者委員会) 広島、それぞれの

活動報告と今後の取り組み提案

平和推進チームは、「正義と平和」全国集会広島大会の状況報告と全体収支、報告集の作成に関する報告があり、平和推進チーム体制の確立、平和行実務委員会との連携、在住外国人共生窓口の早期体制作りとJICARMとの連携が今後の取り組みとして提案された。

養成推進チームは、集会祭儀司式者・聖体奉仕者の養成に関する取り組みのため、教区養成担当班の設置の具体的提案、また「みことばの分かち合い」出前研修の実施と今後の予定が報告された。

きょうどう推進チームは、「きょうどう」に関するアンケートの実施と分析、きょうどうの実りについて報告があり、巡礼地・殉教

地ネットワークとの連携と巡礼の奨励、それに関するプレゼンテーション用資料の制作、養成推進チームと

の制作、養成推進チームと

二〇〇八年教区年間テーマ

## 「平和の使徒となろう」〜今、殉教を生きるとは？〜

# 釜山教区50周年特集

(二面より続く)  
の連携、司祭・信徒のきょうどうのより一層の推進が今後の取り組みとして提案された。

J-CARM広島は、フイリピンググループ・ブラジルグループの活動として、司牧・教育・文化面において具体的な活動の報告があ

十月三十一日(水)  
釜山教区は創立五十年記念のごミサを南川のカテドラルで黄司教の主式で祝った。カテドラルは三千人の信徒が参列できる聖堂で、内陣は司祭二百人の席が半円陣で出来ている。この内陣と信者席前部で司祭三百人近く、そして信者席は超満席であった。残念なのは、鄭司教様が六月に亡くなり、その姿が見えないことであった。ごミサの初めに広島教区とインファンタ教区の代表者が紹介され、極く、通常のごミサ

り、教区在住外国人共生窓口の早期確立の要望、各地区・各小教区の窓口設置の要求とそれに向けた今後の取り組みが大切であることが提案された。

③教区年間活動計画の提案  
「ペトロ岐部と百八十七殉教者列福ミサ」に向けて、教区内の各地で行われ

が行われた。ごミサ後、表彰式があり、信者が三名表彰され、初代教区長崔司教への感謝が述べられ、続いて司教のあいさつがあった。高齢にもかかわらず、力強い声で教区民と司教はじめ聖職者への感謝の言葉があった。その後、簡単な祝賀会となった。

式典は実に質素であったが、その分日常の信仰生活への取組みへの秘めた熱情を感じさせるものであった。

### 三姉妹教区交流会

十月三十一日(水)釜山教区創立五十周年記念ミサに合わせ、釜山に三姉妹教区より司教、司祭、シスター、信徒の代表が集まり交流会がもたれた。

る殉教巡礼行事を推進していくことが提案された。行事の詳細については、その都度、連絡していく予定とのこと。

以上のことが中心に話し合われ、その結果、二〇〇八年教区テーマが決定された。

「殉教」「キリストの証し

参加者は、インファンタから Bp. Tirona De Maria, シスター、助祭／釜山から司教、ユン神父ほか数人の神父と信徒／広島から三末司教、(神父) 斉藤、後藤、ジェリー、金、荻、(信徒) 筒井(山口教会)。

### 【会議の議題】

- 1 初めの祈り／三姉妹教区の祈り、日本語
- 2 参加者紹介
- 3 教区の最近の様子

1 釜山

六月一日鄭司教帰天。／教区五十周年記念行事大規模にはなく、各小教区でミサ他、内容を充実させて、十月七日に祝われた。／その他、徒歩聖地巡礼などをを行った。

人」「今、何をすべきか」私たち教区民一人ひとりの心に留まり、真剣に祈り考え、「正義と平和」全国集会広島大会で得た「平和の使徒」としてのきっかけを實踐していく一年になることが込められた教区テーマである。

(平和の使徒推進本部)

- (2) インファンタ

Peace dialogue (平和の集い)が行われた。／台風により家を失った人への住居の提供が行われ続けている。

- (3) 広島

「正義と平和」全国集会広島大会の報告。／教区司祭インファンタ訪問 タガイタイでの黙想。釜山教区より今年、姜神父、李神父が広島教区で働くために来日している。

- 4 釜山広島教区サッカー交流について

今後は教区レベルではなく、信徒による宣教サッカー団が対応する。次回は、広島開催との意見が出た。

- 5 今後の三姉妹教区交流会の日程について

最近のように毎年でも開

き、出会うことが大切(インファンタ)、二年に一度は開いたほうが良い等様々な意見が出されたが、今後は交流に必要な行事の時に、三姉妹教区交流会も併せておこなうことに決定された。

### 6 終わりの祈り／タガログ語、韓国語

三年間続けて開かれていたため、今回は特別の議題はなかったが、顔を合わせ、友好を深めることの大切さを今回も確認できた。姉妹としての親しさが、全ての協力の源であることを痛感できた実りの時であった。



# 釜山教区50周年特集

## 日本語勉強中!!釜山教区からの神父様

今年三月に広島に來られた姜神父様と、九月に來られた李神父様にインタビューをしました。姉妹教区の釜山教区から神父様が來られるようになったのは二〇〇二年、李神父様は六人目の神父様です。

### 姜神父様

◆ご出身はどこですか？

釜山の凡一洞です。

◆神父様になられる以前は、何をされていましたか？

軍隊に入り、それから大学、神学校へ進みました。

◆ご趣味は何ですか？

マウンテンバイクと散歩です。宇品の港まで散歩に行つたこともありますよ。

◆なぜ神父様になりたいと思つたのですか？

私の家は代々カトリックで、私は六代目です。自然とそうになりました。

◆どうして日本で働くかと思つたのですか？

日本はそれまで考えてもいないところでしたが、司教様から言われ日本に行くことになりました。

◆広島はどうですか？

今日日本に来て八カ月くらい経ちました。初めのうちは生活や文化の違いに戸惑いました。

「広島＝平和」というイメージが私にはあります。

私はよく広島市内を歩きます。広島は昔多くの人が亡くなった場所だけど、今は世界の中心に立つて平和を伝える場所だと思えます。

◆メッセージをどうぞ。

初めは釜山の教会との違い、特に規模の小ささに戸惑っていました。しかし教会



に來ている信者さんほとても熱心です。釜山でも日本でも神様はどこにでもいらつしやいます。日本には神様を知らない人が多いので、神様のことを伝えて行きたいと願っています。これから一緒に神様のために信仰生活を送りましょう。

### 李神父様

◆ご出身はどこですか？

釜山の多大洞です。

◆神父様になられる以前は、何をされていましたか？

高校を出て、神学校に進みました。

◆韓国の神学校は何年間ですか？

七年間、軍隊を含めて十年間です。十九歳～三十歳まで入れます。

◆ご趣味は何ですか？

音楽を聴くことと、ピアノを弾く(クラシック)ことです。

◆なぜ神父様になりたいと思つたのですか？

子どものときから少し考えていたんです。神学校へ入って使徒パウロの言葉「すべての人に対してすべてのものになりました。」



(一コリントの信徒への手紙九章二十二節)を知りました。私も使徒パウロと同じ使命を持って、良い神父になりたいと思いました。

自分が好きな人を愛するのは易いことです。しかし嫌な人を愛することは難しいです。神父になって嫌いな人、貧しい人、不自由な人を全て愛し、神様の愛をもつて、世の中の人を愛したいと思つています。

◆どうして日本で働くかと思つたのですか？

神父になり、日本に限らず宣教地に行きたいと思つていました。今回日本に來る機会を得て、司教様に自分で行きますと言いました。

日本で信者さんに会って、神父として神様の言葉や教えを分かち合いたいと思つています。私が神父になったときの決心の言葉は、「生きているのは、も

はやわたしではありませぬ。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」(ガラテヤの信徒への手紙二章二十節)という使徒パウロの言葉です。いつも自分の中にこの言葉を持って生活しています。

◆広島はどうですか？

広島を考えると痛みのあるところだと思えます。しかし広島の人々の生き方を見てみると、痛みの中で創造し発展しようという意志が見えてきます。創造し発展する意志が「平和」なのでしょう。広島は痛みを持つて、神様の平和と愛をどう伝えるか考えるところです。私は広島に住んでいる人々が、熱心に平和を世界に伝えようと努力していると感じています。

◆メッセージをどうぞ。

信者の皆さん、神様の平和を発見しながら、一緒に信仰生活を送りましょう。どうぞ宜しくお願いします。

# 今年の列福式に向けて 期待される 「広島司教区殉教地・巡礼ネットワーク」

十一月二十四日(土) 十一時から十五時まで広島カトリック会館に於いて、司教区内に殉教地・巡礼地・巡礼行事等を持つ教会・活動団体から二十名が集い話し合った。

このネットワークは、〇三年九月に倉敷市で開催された、教区創立八十周年にあわせて発足して以来、現在まで四年間活動してきた。

今回は「今までの事務局の活動状況」および今年列福される「ペトロ岐部と百八十七殉教者」に含まれる教区内の五人の殉教者に関



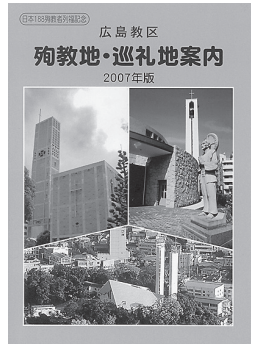
する活動について、またその他の報告・紹介をしていただいた。

また、今後とも活動を継続発展させるために、事務局長の四年毎の三地区持ち回り等を含む「会則」の制定を目指し検討した。今年度内には成案とし、来年度から新体制での活動継続を目指したいと思っている。

協働司祭の肥塚神父は、『バチカンも巡礼を宣教の方法として力を入れようとしている。全国的なネットワークの構築もこれから考えられる時に、ネットワークを持つているのは広島教区だけで国内でも先駆的な組織。今年は列福式の年。ネットワークの活動が重要性を持つてくる』と話した。

## 殉教地・巡礼地案内 改訂版発行

〇三年のネットワーク発足時発行の初版を大幅増補改訂。百八十八殉教者の列



福決定と、「正義と平和」全国集会広島大会開催を記念して発行。この一冊を読めば広島司教区内の殉教地・巡礼地と殉教者の概要がよく分かるようになっているのでぜひ一冊お求め下さい。五百円のカンパをお願いします。

## 「ペトロ岐部と百八十七殉教者」の列福式について

二〇〇七年九月二十九日(土)、日本カトリック司教協議会は、教皇庁国務省からの通達を受けて、「ペトロ岐部と百八十七殉教者」の列福式を二〇〇八年十一月二十四日(月)に長崎で執り行うと発表しました。

今年の列福式が特に意義深いのは、運動が日本カトリック教会の主導で始められ、列福式が史上初めて日本で行われることです。今回福者に列せられる

「百八十八人」が、偉大な殉教者であったというより、彼らの生き方(死に方)を通して、現代日本のキリスト者に、信仰をもって生きるための示唆を与えてくれるのです。

日本の九教区(新潟、東京、京都、大阪、広島、福岡、長崎、大分、鹿児島)から、それぞれ代表的な殉教者が選ばれました。百八十八殉教者は、司祭・修道者は五人だけであり、百八十三人は老若男女

の信徒です。大名の重臣であった武士から農商工業者、家庭を支えた女性、子ども、障がいなどのために差別された人たちにいたるまで多岐にわたっています。

これから、「列福式実行委員会(委員長…高見三明大司教)」から詳細な案内が公表されます。列福式が日本のカトリック教会にとって、新しい一歩を刻む恵みの機会となるように祈りましょう。(肥塚神父)

## 「平和の聖母園」聖母祭

十一月三日、長門市俵山の「平和の聖母園」で、四人の司祭によって、「平和のミサ」が捧げられました。家庭内の悲惨な事件や、「キレル」現象が中高年世代にも広がり、無意識のうちに心が蝕まれていくようなこの頃ですが、俵山の平和の聖母への祈りが、心の潤いをとりもどし、人間味豊かな社会になっていくよう祈りました。



参加者は少なかつたですが、湯治客の心とませる場として、喜ばれているとの地元自治会長さんのお話もありました。毎年、長崎から参加家族の侍者奉仕に感謝。

今年は行事が重なり、

**J・I・C・A・R・M 広島**  
 (日本難民移住移動者委員会)  
**の新しい動き(3)**  
 萩 喜代治神父

1 全国担当者会議

1 全国の現状

○入管法の改正により問題が悪化してきている。

○収容所の長期化、遠方化。

○面会が難しくなってきたりしている。

○VISAの更新が難しくなった。

○外国人の子どもへのいじめの問題。

○西宮トラピスト七人の志願者のVISA更新が難しくなった。

○家庭内暴力、離婚、うつ病、パチンコ依存症などの問題が多発。

2 新しい試み (京都教区の場合)

○ブラジル、フィリピンから司祭、シスターを呼び、彼らは外国人および日本人の為に働いている。

○ラテンアメリカ人合同堅信式。

○国際ファミリデーのミサ、集い。

II 広島教区において

今回は十一月六日に開かれたフィリピングループの報告をします。

1 再度、フィリピン司祭、シスターの派遣のついてのお願い。黙想会、ゆるしの秘跡、ミサ等を、タガログ語・英語で行うことができるよう要請がきているが現状では対応できない。再度、要請の強い願いが全員より提出された。

2 福山地区において「研修生」の弱い立場について、報告がされた。最近の二名のフィリピン人の過労死が報告された。



クアアチア・ブコヴァル犠牲者追悼ミサ (11月18日) 6頁参照

司祭人事異動

三宅秀和神父

長束修道院へ(出雲教会)

二〇〇八年一月一日付

レネ・カンデラリア神父

倉敷地域モデラトル

(倉敷地域チーム司祭)

二〇〇七年十二月一日付

\*カッコ内は旧職

広島の殉教者 ③ (フランシスコ遠山甚太郎)

遠山甚太郎は、甲斐の国の浅野幸長の家臣の家に生まれました。二十四歳で殉教と記されているので、誕生は一六〇〇年かその前年でした。

浅野幸長が関ヶ原の戦いで軍功の報いとして三十七万六千石を与えられ、紀伊和歌山に入城した際、遠山一族も同行しました。

一六一四年、徳川幕府のキリシタン禁令が強化され、宣教師追放にともない和歌山の教会も閉鎖されました。領主浅野幸長を継いだ長晟はキリシタンに対して比較的寛容でしたから、定期的に宣教師が和歌山を訪れ、信徒たちの世話をしていました。

遠山甚太郎が洗礼を受けたのは、十六歳と記録にあるので、一六一五年か一六一六年でした。

洗礼を受けたのは、フランシスコ会のアポリナリオ・フランシスコ神父で、洗礼名は、フランシスコ会の創立者アシジのフランシスコでした。

フランシスコ甚太郎は、

の留守中、家令が勝手に改宗の署名をしましたが、甚太郎はキリシタンとして処刑されるよう嘆願しました。

その頃、フランシスコ会の理想にして信仰の道を歩み続けることとなりました。

一六一九年、福島正則の改易後、浅野長晟が広島城主に任ぜられ、遠山甚太郎も広島に移ってきました。

一六二二年九月十二日、代表の内に「遠山甚太郎ふらんしすこ信政」の署名と花押があります。

一六二二年九月十二日、青年甚太郎に洗礼を授け霊的指導者であったアポリナリオ・フランシスコ神父が大村で火焙りになったと聞くや、長崎まで行き師に従って自らも殉教しようと願いました。

一六二四年、浅野長晟による宗門改めの際、甚太郎

が

の留守中、家令が勝手に改宗の署名をしましたが、甚太郎はキリシタンとして処刑されるよう嘆願しました。

その頃、フランシスコ会の理想にして信仰の道を歩み続けることとなりました。

一六一九年、福島正則の改易後、浅野長晟が広島城主に任ぜられ、遠山甚太郎も広島に移ってきました。

一六二二年九月十二日、代表の内に「遠山甚太郎ふらんしすこ信政」の署名と花押があります。

一六二二年九月十二日、青年甚太郎に洗礼を授け霊的指導者であったアポリナリオ・フランシスコ神父が大村で火焙りになったと聞くや、長崎まで行き師に従って自らも殉教しようと願いました。

一六二四年、浅野長晟による宗門改めの際、甚太郎

が

## 地区便り

### 山口・島根地区

#### \*山口・島根地区大会

三末司教をお迎えし、十月二十一日に地区大会が開催された。今大会は、今までのバザーや催し中心のフェスティバルではなく、午前の三ブロックプレゼンテーションも午後のミサも殉教者を想い、ともに祈ることに主眼を置いた「祈り」の大会となった。

大会当日、記念聖堂内は司祭・修道者・信徒で埋め尽くされ、五百名は超えていたと思われる。

現在、地区内の小教区、修道会に地区大会の感想提出を依頼しているが、「事前準備や大会を通し、多くの人と分かち合えた」、「国際ので生きた教会を肌で感じた」、「殉教者を身近に感じることができた」、「これからどう活かすかが課題」など、多くの意見が寄せられている。

#### \*養成出前進行中

教区養成推進チームの「養成出前」を十一月二十

五日松江、十二月一日祇園で実施。祇園では山口島根地区養成スタッフと四教会(三原・尾道・福山・笠岡)

合同信者養成委員会のメンバーが一緒に出前に取り組んだ。今後も、信徒・修道者・司祭と、また地区を越え、広島教区の三本柱「平和」「きょうどう」「養成」の具現に向け努力にしたい。

### 岡山・鳥取地区

#### 「養成」二月の活動取組み

◆「セブンスステップみことばの分かち合い」研修会を

二〇〇八年二月十日(日)十時から十五時まで鳥取教会で開催。山口・島根地区養成チームに当地区養成チームの伊藤順子と近江嘉子が加わって研修を行う。

#### ◆第3回共育セミナー

「家庭とよろこび」共に語り、共に笑おう」

二〇〇八年二月十六日(土)十四時から十六時まで岡山カトリックセンターで開催。三十代・四十代の女性(男性も)を教会に引きつけることを意図して、この世代の信徒を中心にセミナーの企画・運営を行う。

### 広島地区

十一月十八日に世界平和

記念聖堂において「クロアチアヴコヴァル犠牲者の為の追悼記念ミサ」が三末司教の司式で執り行われた。

クロアチアのブコヴァルは、九一年に勃発した侵略戦争の最中、約二千名の市民自衛団が八十七日間に亘り、旧ユーゴ軍に対して必死に町を守っていたが、ついに十一月十八日に陥落。約五千人の命が奪われ、最悪の被害を受けた。駐日クロアチア大使ドラゴ・シュタンブク氏からの依頼を受け、三末司教は戦争犠牲者を悼み、平和の実現のために両国の信徒が手を携えて祈ることを決め、陥落の日と同じ十一月十八日に追悼ミサが捧げられることになった。

当日のミサには、近隣の教会から多くの信者が集まり、盛大に祈りが捧げられた。その様子を信徒がビデオ撮影してクロアチアに送信し、同日の全国ニュースで放映されたことが伝えられている。

(写真は5頁に掲載)

### 海峡からの風

下関労働教育センターだより

●かつて「殺すな!」というスローガンがありました。一九六五年二月七日に開始されたアメリカ軍の、ベトナム北爆を受けて、「ベトナムに平和を!市民連合」の活動が全国に広がって行きました。このベ平連のスローガンが「殺すな!」だったのです。●それよりはるか昔に「殺すな」と定められたモーセの十戒があります。●国家が行う(殺人)には戦争と死刑制度があります。死刑制度を支持、あるいは容認している人は、凶悪な殺人を犯したのだから罪には相応の罰が必要だと考えてしょう。いろいろな考え方があの中で、キリスト者はどう判断すればいいのでしょうか?●私が考えるのは、命は人間を超越した存在に由来しているとイエズスは述べ、キリスト者はそれを信仰していると語りしていることは、私

ちは命というものに、いかなる責任も負うことができないと言っています。●戦争と、死刑は本当に違うものなのでしょうか。十戒にある「殺すな」という言葉に、はたして例外があつてよいのか、と言っています。●自己や他者、この自然、この地球、宇宙の存在が何に由来しているのかを考える叡智を、神は自分の似すがたとして人に備えられました。●いかに科学が発達しようとも、人間が触れたり、変えたりしてはならないものをきちん

と判断し、自分たちの領域ではないものを侵さないという叡智。その侵してはならないものが神の領域にある命だと思ふのです。●十戒の殺すなも、ベ平連の殺すなも、死刑反対の殺すなも、「命は不可侵である」という叡智の宣言なのです。●「クリスマス」という、ひとつの命の誕生を喜び祝うこの日はまた、どんな命も分け隔てなく大切に考える日でもあります。

(細江教会・廣崎隆一)

お元気で！  
ムッシェ神父様



倉敷ブロックで八年に亘り共同宣教司牧場チーム・モデラートル司祭として活躍されたムッシェ・フランソワ神父様（淳心会）が、十一月末をもって大阪YMC Aセンター（働く青年の家／大阪教区）に異動になりました。

ムッシェ神父様はベルギー出身で、戦争中はドイツに占領され苦しい経験を経験されました。そして司祭叙階当初から働く青年との関わりをもつておられ、今日まで続いています。今後のご活躍をお祈りいたします。



11月17日玉島教会での送別会にて

ヨハネ・パウロ二世来広二十五周年記念誌  
制作期間一年ついに発刊

九月二十二日「正義と平和」全国集会広島大会の開催にあわせて「教皇ヨハネ・パウロ二世の広島」来広二十五周年記念誌が、一年の準備を経て、ついに発刊された。

本誌は、教皇ヨハネ・パウロ二世来広当時を振り返って、各方面の人々のインタビュー、対談、寄稿文、当時の新聞記事や写真を時系列で掲載している。また、教皇ヨハネ・パウ

編集部より

以下の案内が届いていますのでお知らせいたします。

- ①ヴァルデマールキッペス著『病気になるっても病人になるな―病氣中の内面的な歩み・生き方・闘い―』協業組合ユニカラー社、〇七年八月発行。入院・病氣療養中の方、その必要性に迫られる方、病院・医療関係に従事されている方に是非お読みいただきたいとのことです。
- ②ドン・ボスコ社クリスマス

ロ二世来広関連記事だけでなく広島教区、平和への取り組みの歴史である「平和行事二十五年の歩み」など、カラーページも多く、見応えのある仕上がりとなっている。

問い合わせは、広島教区本部事務局、電話〇八二二二二一六〇一七。



ス絵本の新刊。『かがやく星のもとに』、『わたしの時

期が遅くなりすみません。』

- ③オリエンズ宗教研究所「カトリック通信講座（全7講座）」この講座は、キリスト教を知りたい、学びたいと望みながら、様々な理由から教会に通うことができない方に、受洗後の学習、堅信・挙式の準備の一環としても最適な内容です。ホームページか電話連絡。〇三二二二二二七六〇一

カトリックの雑誌  
聖母の騎士社  
『月刊 聖母の騎士』

「福音宣教」は、日本のカトリック教会において、福音宣教についての意見や体験、願いや祈りをなど、誌面を通じて分かち合い、神のみこころがこの日本社会で叶えられるように、信徒一人ひとりと与えられた使命を生きる上での情報を提供することを目的とした月刊誌です。司祭、修道者ばかりでなく、宣教の使命に気づき、それを使徒職として生きようとする多くの信徒にも読まれています。

今年度はヨハネ福音書八章31―38節より「真理はあなたたちを自由にする」をテーマとし、一月号は「若者と自由」二月号は「家族と自由」三月号は「心と自由」と題して、巻頭にインタビュー記事を掲載し、毎月の特集を企画しています。

一九八四年に司教団が「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表して、福音宣教への取り組みをはっきりと意識したことをうけて、翌八五年に「布教」誌から「福音宣教」と誌名を刷新して再出発して以来、二十四年の刊行を続けています。残念ながら今日ではカトリック教会で唯一の月刊のオピニオン誌となつてしまいました。が、なお多くの期待が寄せられています。

また、年間連載として、溝部脩司教「殉教者から現代へのメッセージ」、カルメル会司祭九里彰師「見よ、畑は色づいている―キリストの目に映じた世界」、立教大学名誉教授鈴木範久氏「近代日本における信教の自由の歩み」、そしてイエズス会司祭光延一郎師「真理と自由、まことと恵み」が始まりました。御愛難会司祭国井健宏師「ミサ」、東京教区司祭晴佐久昌英師「福音宣言」、援助修道会会員原敬子氏「良き知らせが響きわたるために―カテケージスという言語」も連載を継続中です。

●オリエンズ宗教研究所  
（電話）〇三二二二二二二二  
七六〇一



### 「ケーキと召命」

玉野教会

金 起 瑩 神父

皆さんは信仰生活の中でどんな時、神様からの呼びかけを感じますか？人生のあらゆる経験と出来事を通じて神様は私達を呼んでいらっしゃると思いますが、それに気づくには長い時間が必要なものもあるようです。

今日は私の召命の話皆さんにお聞きいただくことで、常に私達を呼んでおられる神様の呼びかけに、もう一度耳を傾けていただけたらと思います。

私は五歳の時、母の導きで金海という小教区で洗礼を受け、少年期の多くの時間を教会で過ごし、良い方々と沢山出会いました。特に小学校二年生の時に出会った、神父さんとシスター達は私の召命に大きな影響を与えてくださいました。

ある日、土曜学校のミサのお説教の中で、神父さんがいきなり子ども達にこんな風に問いました。

「将来神学校へ行きたい人は手を上げてみなさい！」

しかし、神学校が何なのか全く知らない子ども達も誰も手を上げませんでした。

すると、神父さんは質問をこっそり変えて問いました。

「将来、神父さんやシスターのような人になりたい人は手を上げてみなさい！」

しかし、それでも訳が分からぬ子ども達は誰も手を上げなかったのです。そこで神父さんはもう少し原始的な方法で問いました。「司祭館の冷蔵庫においてケーキがある。今、手を上げる人にはそのケーキをあげる。」と。

すると私を含め七人の少年少女が手をぴかっと上げました。将来自分の人生がどうなるかが、今はケーキ

が食べたい子ども達でした。

七年後、高校生の私は〈予備神学生の集まり〉という黙想会に参加しました。どうして自分がここに来るようになったのかと分かち合いをした時、私は瞬間に悟りました。『ああ！あのケーキ!!』

神様は私にケーキ一つぼつんとくださったから今も一生をお使いにしておられます。もちろんそこに私の同意がなかったら司祭になることはなかったでしょう。

神様は単純に美味しいケーキを食べた少年の喜びを、人生のもっと大きな喜びと幸せに変えるため私をこの道へ導いてくださいました。

今一度顧みてください。

「あの時、神様が呼ばれなかったか？」と。神様は日常生活の中で私達を呼んでおられます。その時私達は皆「Adsum(はい、ここに私がいいます)」と答えましょう。確かに神様は皆さん一人一人のために特別な召し出しを準備しておられます。

新年も神様の大きなお恵みが皆さんに豊かにありますように。アーメン！



(56)

### ソフトボール大会 in 福山

十一月三日、文化の日。福山の芦田川河川敷で三末司教杯ソフトボール大会が行われました。今年も、岡山、福山、呉、三篠、職町の五つの教会が参加。神父様・青年たち・もと青年、子どもたちの約八十人が集まりました。

秋晴れのとても気持ちよい空のもと、総当り戦で白

#### お知らせ

#### 中国ブロック カトリック高校生大会

毎年恒例の中ブロ。今回のテーマは「そのまんま私」。このテーマは、自分を知り、自分の良いところも悪いところも受け入れることができるようになりたいという考えから生まれました。皆さん、是非参加してみてください。

日時：二〇〇八年三月二十  
五日～二十八日

場所：山口、サビエル高等学校

学校

熱した戦いが繰り広げられました。今年も、どのチームもとてもレベルが高く、ホームランやすばらしいプレーがいろいろなところで見られました。結果は、一位三篠、二位呉、三位福山、四位岡山、五位職町でした。スポーツを通して、他の教会の人たちと交流ができたすばらしい一日になりました。

また、来年も福山にて開催する予定です。みなさん、楽しみにしてください。

対象：中学三年生～高校三年生  
お問合せは青少年情報センターまで。



マニラに出張。空港を出るとすぐに目の当たりにする格差社会の現実、社会の不正。だが人々の信仰心は篤く、目の輝きに「偽」りは無い。我々の「偽」に満ちた社会で、「真」の信仰を確信する一年にしたい。

(Y・K)